

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*乗鞍コロナ観測所にあった職員の銘盤

乗鞍コロナ観測所(写真1)は1949年(昭和24年)、野付誠夫先生はじめ多くの人の努力で設立され、2009年度末、2010年にその60年にわたる歴史を閉じた。乗鞍コロナ観測所は国立公園に建設されていたため、その幕を閉じるのも容易ではなかった。観測所撤去

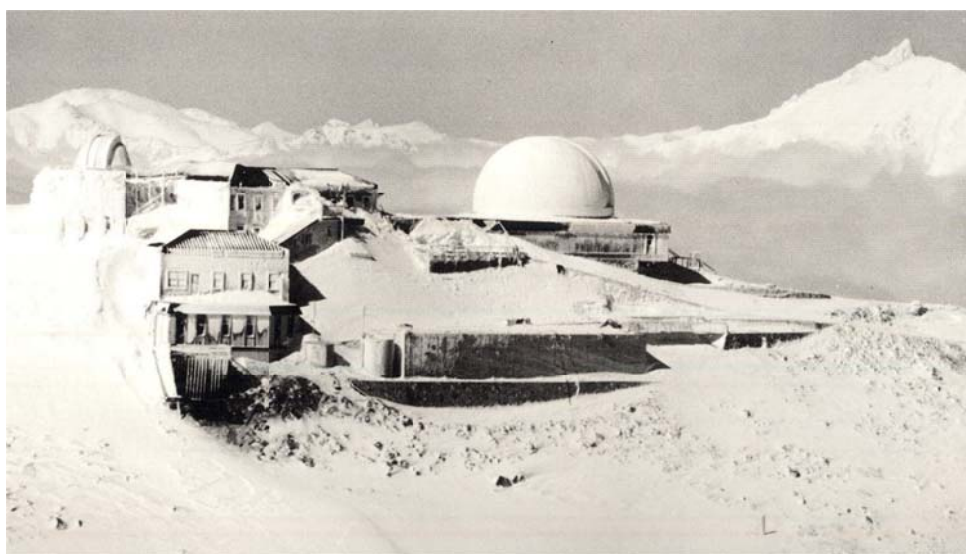


写真1 雪に閉ざされる乗鞍コロナ観測所

には国立公園の景観の原状復帰が求められ多額の経費が掛かるため、閉所ということで、施設、設備はそのまましておくということになった。ということは施設、設備は朽ち果てさせるということだが、建物は自然科学研究機構として有効活用が図られることになり、観測設備の内10cmコロナグラフは新天地で活用、25cmクーデ型コロナグラフは構想されて

いる国立天文台博物館の目玉の展示とすべく復元可能な分解が行われ、三鷹キャンパスの天文機器資料館(写真2)に保管され、安住の地を待っている。

国立天文台でアーカイブに仕事を始めた筆者が25cmクーデ型コロナグラフを三鷹に持ち帰ったのであるが、その際、この望遠鏡に設置されていた観測所員の名前を刻印した銅板のプレートを持ち帰



写真2 天文機器資料館

っていた(写真 3)。乗鞍コロナ観測所開所以来の観測所に入所した順に、1949 年の野附誠夫先生から 1986 年の桜井隆氏まで総勢 84 名の名前が刻まれている。観測所開所の 1949 年に 14 人、1950 年に 9 人、1951 年 1 人、1952 年 2 人、1953 年 15 人、1954 年 1 人、1955 年

東京大学東京天文台 乗鞍コロナ観測所に勤務した職員											
氏名	始年	終年	氏名	始年	終年	氏名	始年	終年	氏名	始年	終年
野附誠夫	1949	1960	深津正鉄	1953	~	宮下正邦	1966	~			
千場達夫	1949	1964	奥田春美	1953	1972	松本宗男	1966	1970			
長沢進午	1949	1970	佐藤俊夫	1953	1961						
清水一郎	1949	1984	吉田弘	1953	1960	田中捷雄	1967	~			
小野実	1949	1980									
大江恒彦	1949	1985	酒井照夫	1954	1964	小沢一豊	1968	1973			
大名取正雄	1949	~				筒木静雄	1968	~			
野島幸雄	1949	1966	二日市金作	1955	1958						
山本康郎	1949	1953	日江井栄二郎	1955	~	熊谷収可	1969	~			
宮沢正英	1949	~				石川洋子	1969	1972			
森下博三	1949	1986	中昭男	1956	1959						
河野節夫	1949	1971	江口満	1956	1963	福島英雄	1971	~			
虎尾三春	1949	1964	宮崎英昭	1956	~						
原孝	1949	1964				佐野一成	1972	~			
			小俣三喜雄	1957	1959	石川晋一	1972	1984			
藤原清	1950	1964				斎藤守也	1972	~			
中込光	1950	~	松江光昭	1958	1970	上松義昭	1972	~			
外城戸博	1950	1953									
矢島昭一	1950	1981	井山敏子	1959	~	木挽俊彦	1981	~			
東康一	1950	1980	大城義名	1959	~						
積田寿久	1950	1965	佐藤誠四郎	1959	1960	田中伸幸	1984	~			
清水保夫	1950	~	佐藤英男	1959	1968						
猪頭幸男	1950	1951				牧田貢	1986	~			
太田日出男	1950	1952	内田誠	1960	1971	桜井隆	1986	~			
			鈴木邦男	1960	1963						
馬場斎	1951	1958									
			渡辺泰一	1961	1963						
斎藤八ッ雄	1952	1974									
浜名茂男	1952	~	神田泰	1962	1969						
			安藤泰彦	1962	1968						
西恵三	1953	1982	本木照雄	1962	1972						
徳家厚	1953	~	平山淳	1962	1986						
水垣和夫	1953	~									
鈴木利和	1953	1971	今井英樹	1963	~						
小沢達	1953	1958	入江誠	1963	~						
山口喜助	1953	~	箕輪湧吉	1963	1972						
代情靖	1953	~									
小出常夫	1953	~	小林亮	1964	1972						
岡本富三	1953	~	阿部健望	1964	1966						
山口朝三	1953	1982	南海勝	1964	1971						
大塚寛	1953	1957	守山史生	1964	1985						
			筒木起志夫	1964	~						

写真 3 84 人の名前が刻まれた銘盤

2 人、1957 年 1 人、1958 年 1 人、1959 年 4 人、1960 年 2 人、1961 年 1 人、1962 年 4 人、1963 年 3 人、1964 年 5 人、1966 年 2 人、1967 年 1 人、1968 年 2 人、1968 年 2 人、1971 年 1 人、1972 年 4 人、1981 年 1 人、1984 年 1 人、1986 年 2 人が乗鞍コロナ観測所に入っている。

現在この 84 人の中で国立天文台に在籍しているのは、熊谷収可、福島英雄、木挽俊彦、田中伸幸、桜井隆のわずか 5 人である。この銘盤の名前を見ると、初めのころの乗鞍コロナ観測所から当時の天文時部の 5 人の名前があるが、これは異動したのではなく、無線技術者として天文時部所属の人が一時的に乗鞍観測所に勤務したものであろう。筆者の知る限り、河野節夫、虎尾三春、原 孝、藤原 清、酒井照夫氏の各氏である。乗鞍コロナ観測所には当初電話がなく、無線通信で三鷹と連絡を取っていたので、無線技術者が交代で乗鞍コロナ観測所に滞在していたのであろう。また、この銘盤には東京天文台時代の当時の運転手の名前がすべて記載されている。これも筆者の知る限り、夏の時期、運転手（安藤康彦、本木照雄、箕輪湧吉、小林 亮の 4 人）が交代で観測所に詰めていたと記憶している。また所属が乗鞍コロナ観測所であったが実際には観測所に観測のために山頂に滞在したことの無い人たちも含まれている。

この銘盤が設置されたのは、1971 年に建設された 25 cm クーデ型コロナグラフの 15 周年記念で設置されたものと思われる。

この銘盤は銅板で製作されており写真 2 ではその様子が分からないので、雰囲気がかかる写真を載せておく(写真 4)。



写真 4 銅板製の銘盤

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp